

横查情報月報



2021
5051

3月
3日

横浜市衛生研究所

令和3年3月号 目次

【検査結果】

| | |
|-----------------------------|---|
| 農産物の残留農薬検査結果（令和2年11月） | 1 |
|-----------------------------|---|

【感染症発生動向調査】

| | |
|---------------------------|---|
| 感染症発生動向調査報告（令和3年2月） | 3 |
|---------------------------|---|

【情報提供】

| | |
|-----------------------------|---|
| 衛生研究所WEBページ情報（令和3年2月） | 7 |
|-----------------------------|---|

農産物の残留農薬検査結果(令和2年11月)

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物等に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、令和2年11月に健康福祉局食品専門監視班が収去した市内産農産物の検査結果を報告します。

11月に収去された、キャベツ3検体、かぶの根及びだいこんの根各2検体、かんしょ1検体の計8検体について検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。いずれの検体からも農薬は検出されませんでした。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

表1 農産物の残留農薬検査結果

(令和2年11月)

| 農産物 | 産地 | 検査 検体数 | 農薬検出 検体数 | 検出農薬名 | 検出値 (ppm) | 基準値 (ppm) |
|--------|-----|-----------|-------------|-------|--------------|--------------|
| かぶの根 | 横浜市 | 2 | 0 | | | |
| かんしょ | 横浜市 | 1 | 0 | | | |
| キャベツ | 横浜市 | 3 | 0 | | | |
| だいこんの根 | 横浜市 | 2 | 0 | | | |
| 合計 | | 8 | 0 | | | |

表2 農薬の検査項目及び検出限界

| 農薬名 | 検出 限界 (ppm) | 農産物 | | 農薬名 | 検出 限界 (ppm) | 農産物 | |
|--------------------|-------------------|-----|---|------------|-------------------|-----|---|
| | | A | B | | | A | B |
| BHC(α,β,γ及びδの和) | 0.005 | — | ○ | クロルピリホスメチル | 0.01 | ○ | ○ |
| DDT(DDE,DDD,DDTの和) | 0.005 | ○ | ○ | クロルフェナピル | 0.01 | ○ | ○ |
| EPN | 0.01 | ○ | ○ | クロルプロファム | 0.01 | ○ | ○ |
| アクリナトリン | 0.01 | ○ | ○ | クロロクスロン | 0.01 | ○ | ○ |
| アセタミプリド | 0.01 | ○ | ○ | シアゾファミド | 0.01 | ○ | ○ |
| アゾキシストロビン | 0.01 | ○ | ○ | シアノフェンホス | 0.01 | ○ | ○ |
| アラクロール | 0.01 | ○ | ○ | シアノホス | 0.01 | ○ | ○ |
| アルドリル及びディルドリン | 0.005 | — | ○ | ジエトフェンカルブ | 0.01 | ○ | ○ |
| イソキサチオン | 0.01 | ○ | ○ | ジコホール | 0.01 | ○ | ○ |
| イミダクロプリド | 0.01 | ○ | ○ | シハロトリン | 0.01 | ○ | ○ |
| インドキサカルブ | 0.01 | ○ | ○ | ジフェノコナゾール | 0.01 | ○ | — |
| エトキサゾール | 0.01 | ○ | ○ | シフルトリン | 0.01 | ○ | ○ |
| エトフェンプロックス | 0.01 | ○ | ○ | シフルフェナミド | 0.01 | ○ | — |
| エポキシコナゾール | 0.01 | ○ | ○ | シプロコナゾール | 0.01 | ○ | ○ |
| エンドスルファン(α及びβの和) | 0.005 | ○ | ○ | シベルメトリン | 0.01 | ○ | ○ |
| エンドリン | 0.005 | ○ | ○ | ジメトエート | 0.01 | ○ | ○ |
| オキサミル | 0.01 | ○ | ○ | ジメトモルフ | 0.01 | ○ | ○ |
| カルバリル | 0.01 | ○ | ○ | シラフルオフエン | 0.01 | ○ | ○ |
| カルプロパミド | 0.01 | ○ | ○ | ダイアジノン | 0.01 | ○ | ○ |
| クミルロン | 0.01 | ○ | ○ | ダイムロン | 0.01 | ○ | ○ |
| クレスキシムメチル | 0.01 | ○ | ○ | チアクロプリド | 0.01 | ○ | ○ |
| クロチアニジン | 0.01 | ○ | ○ | チアメトキサム | 0.01 | — | ○ |
| クロマフェノジド | 0.01 | ○ | ○ | テトラコナゾール | 0.01 | ○ | ○ |
| クロルピリホス | 0.01 | ○ | ○ | テブコナゾール | 0.01 | ○ | ○ |

表 2 農薬の検査項目及び検出限界(続き)

| 農薬名 | 検出 限界 (ppm) | 農産物 | | 農薬名 | 検出 限界 (ppm) | 農産物 | |
|-------------|-------------------|-----|---|----------------------|-------------------|-----|---|
| | | A | B | | | A | B |
| テブフェノジド | 0.01 | ○ | ○ | ブプロフェジン | 0.01 | ○ | ○ |
| テブフェンピラド | 0.01 | ○ | ○ | フルジオキソニル | 0.01 | ○ | ○ |
| テフルトリン | 0.01 | ○ | ○ | フルシトリネート | 0.01 | ○ | ○ |
| トリアゾホス | 0.01 | ○ | ○ | フルトラニル | 0.01 | ○ | ○ |
| トリチコナゾール | 0.01 | ○ | ○ | フルバリネート | 0.01 | ○ | ○ |
| トリフルラリン | 0.01 | — | ○ | フルフェノクスロン | 0.01 | ○ | ○ |
| トリフロキシストロビン | 0.01 | ○ | ○ | フルリドン | 0.01 | ○ | ○ |
| トルクロホスメチル | 0.01 | ○ | ○ | プロシミドン | 0.01 | ○ | ○ |
| トルフェンピラド | 0.01 | ○ | ○ | プロチオホス | 0.01 | ○ | ○ |
| ノバルロン | 0.01 | ○ | ○ | プロパホス | 0.01 | ○ | ○ |
| パラチオン | 0.01 | ○ | ○ | プロピコナゾール | 0.01 | ○ | ○ |
| パラチオンメチル | 0.01 | ○ | ○ | プロピザミド | 0.01 | ○ | ○ |
| ビフェントリン | 0.01 | ○ | ○ | プロモプロピレート | 0.01 | ○ | ○ |
| ピリダベン | 0.01 | ○ | ○ | ヘキサコナゾール | 0.01 | ○ | ○ |
| ピリプロキシフェン | 0.01 | ○ | ○ | ヘプタクロル(エポキシドを含む) | 0.005 | — | ○ |
| ピリミカーブ | 0.01 | ○ | ○ | ペルメトリン | 0.01 | ○ | ○ |
| ピリミノバックメチル | 0.01 | ○ | ○ | ペンコナゾール | 0.01 | ○ | ○ |
| ピリミホスメチル | 0.01 | ○ | ○ | ペンシクロン | 0.01 | ○ | ○ |
| ファミキサドン | 0.01 | ○ | ○ | ベンゾフェナップ | 0.01 | ○ | ○ |
| フィプロニル | 0.002 | ○ | ○ | ベンダイオカルブ | 0.01 | ○ | ○ |
| フェナリモル | 0.01 | ○ | ○ | ボスカリド | 0.01 | ○ | — |
| フェニトロチオン | 0.01 | ○ | ○ | ホスチアゼート | 0.01 | ○ | ○ |
| フェノブカルブ | 0.01 | ○ | ○ | マラチオン | 0.01 | ○ | ○ |
| フェンクロルホス | 0.01 | ○ | ○ | マイクロブタニル | 0.01 | ○ | ○ |
| フェンスルホチオン | 0.01 | ○ | ○ | メタラキシル及びメフェノキサム | 0.01 | ○ | ○ |
| フェントエート | 0.01 | ○ | ○ | メチダチオン | 0.01 | ○ | ○ |
| フェンバレレート | 0.01 | ○ | ○ | メキシフェノジド | 0.01 | ○ | ○ |
| フェンピロキシメート | 0.01 | ○ | ○ | メトラクロール | 0.01 | ○ | ○ |
| フェンブコナゾール | 0.01 | ○ | ○ | リニューロン | 0.01 | ○ | ○ |
| フェンプロパトリン | 0.01 | ○ | ○ | リンデン(γ -BHC) | 0.005 | ○ | ○ |
| フサライド | 0.01 | ○ | ○ | ルフェスロン | 0.01 | ○ | ○ |
| ブタフェナシル | 0.01 | ○ | ○ | レナシル | 0.01 | ○ | ○ |

A:かぶの根、キャベツ、だいこんの根 B:かんしょ

○:実施、—:実施せず

DDTは p,p' -DDE、 p,p' -DDD、 o,p' -DDT及び p,p' -DDTの和

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告(令和3年2月)

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告数は減少傾向ですが、その速度は鈍化してきています。
- インフルエンザは例年より報告数が少ないです。
- 梅毒の報告がやや減少しています。

◇ 全数把握の対象

〈2月期に報告された全数把握疾患〉

| | | | |
|--------------------|----|-----------------------|----|
| 腸管出血性大腸菌感染症 | 2件 | 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む) | 4件 |
| E型肝炎 | 4件 | 侵襲性肺炎球菌感染症 | 4件 |
| レジオネラ症 | 7件 | 水痘(入院例に限る) | 1件 |
| アメーバ赤痢 | 5件 | 梅毒 | 3件 |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 | 3件 | - | - |

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O血清群不明1件、O128が1件(いずれも無症状病原体保有者)の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 2 E型肝炎: 4件(うち無症状病原体保有者1件)の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型5件、ポンティアック熱型2件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が5件あり、うち1件が性的接触による感染が推定されています。
- 5 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 3件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 6 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者が2件、AIDSが1件、その他が1件の報告がありました。うち3件が性的接触(同性間2件、異性間1件)による感染が推定されています。
- 7 侵襲性肺炎球菌感染症: 10歳未満が1件(ワクチン接種歴4回あり)、70歳代が1件(ワクチン接種歴不明)、90歳代が2件(1件がワクチン接種歴1回あり、1件がワクチン接種歴無)報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 8 水痘(入院例に限る): 50歳代の臨床診断例(ワクチン接種歴無)の報告が1件ありました。
- 9 梅毒: 早期顕症梅毒 I 期3件の報告がありました。いずれも男性で、うち2件が異性間性的接触による感染が推定されています。

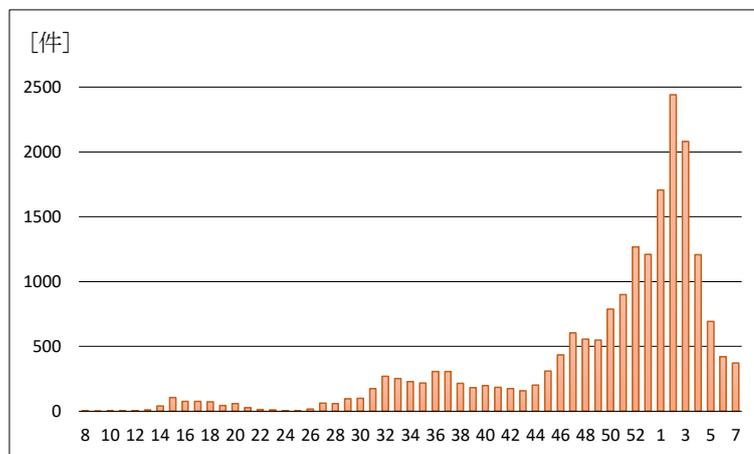
◇ 新型コロナウイルス感染症

第4週～第7週に横浜市から報道発表のありました症例は2,693件でした。

横浜市内の新型コロナウイルスに感染した患者の発生状況

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/yobosesshu/kansensho/coronavirus/kanja.html>

新型コロナウイルス感染症報告数
(報道発表ベース)

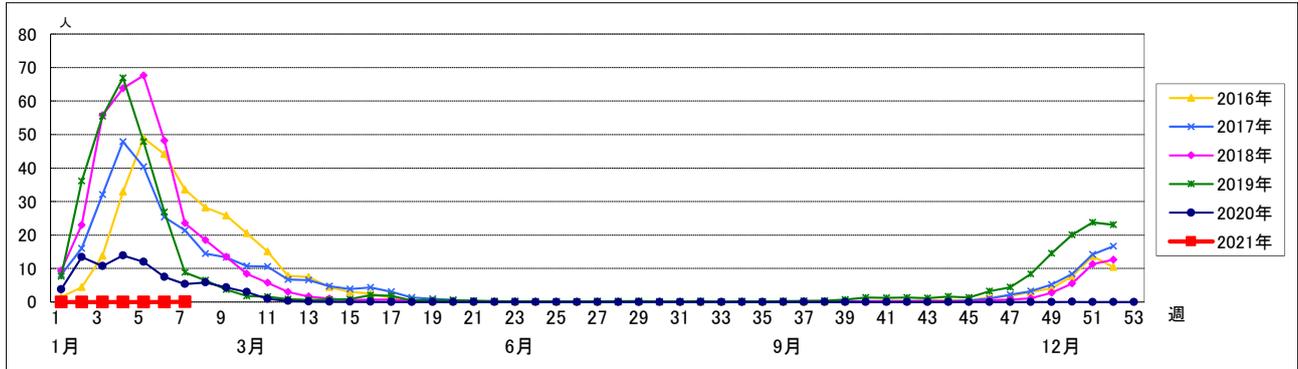


[週]

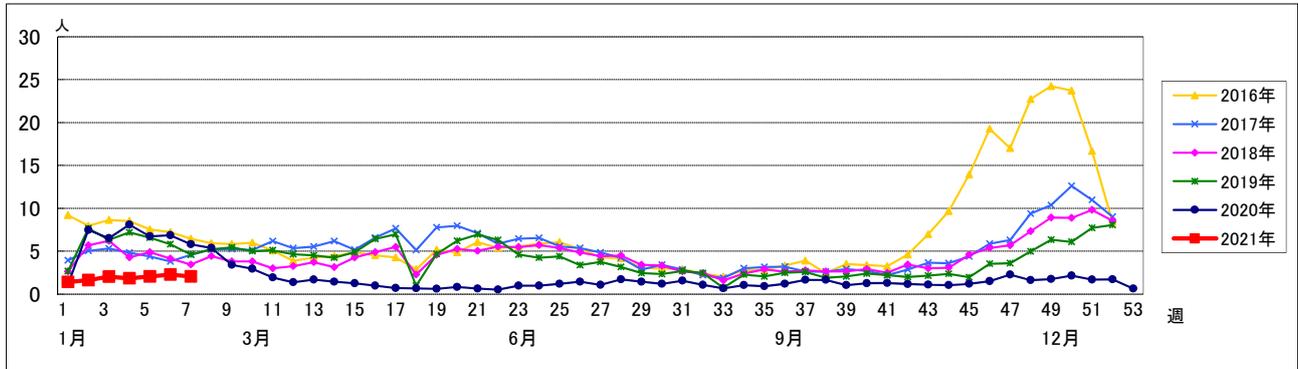
◇ 定点把握の対象:

| 報告週対応表 | |
|--------|-------------|
| 第4週 | 1月25日～1月31日 |
| 第5週 | 2月1日～2月7日 |
| 第6週 | 2月8日～2月14日 |
| 第7週 | 2月15日～2月21日 |

1 インフルエンザ:今シーズンは例年より低めの報告数で推移しており、第7週は0.02です。



2 感染性胃腸炎:例年より低めの報告数で推移しています。第7週は2.06です。



3 性感染症(1月)

| | | | | | |
|------------|--------|--------|---------------|-------|--------|
| 性器クラミジア感染症 | 男性:17件 | 女性:23件 | 性器ヘルペスウイルス感染症 | 男性:3件 | 女性:14件 |
| 尖圭コンジローマ | 男性:3件 | 女性:0件 | 淋菌感染症 | 男性:8件 | 女性:5件 |

4 基幹定点週報

| | 第4週 | 第5週 | 第6週 | 第7週 |
|-------------------|------|------|------|------|
| 細菌性髄膜炎 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 無菌性髄膜炎 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| マイコプラズマ肺炎 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| クラミジア肺炎(オウム病を除く) | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る) | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |

5 基幹定点月報(1月)

| | | | |
|-------------------|----|----------------|----|
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | 3件 | ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | 0件 |
| 薬剤耐性緑膿菌感染症 | 0件 | - | - |

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

1月25日から2月21日までに病原体定点から搬入された検体は、小児科定点25件、内科定点3件、眼科定点1件、基幹定点2件、定点外医療機関からは1件でした。

アデノウイルス1型分離1株及びライノウイルス遺伝子1件、VZV遺伝子1件、ノロウイルスG2遺伝子2件が検出されています

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果2月期(2021年第4週～第7週)

| 主な臨床症状 分離・検出ウイルス | 上 気 道 炎 | 下 気 道 炎 | 胃 腸 炎 | 水 痘 |
|---------------------|------------------|------------------|-------------|--------|
| アデノウイルス1型 | 1 - | | | |
| ライノウイルス | | - 1 | | |
| VZV | | | | - 1 |
| ノロウイルスG2 | | | - 2 | |
| 合計 | 1 - | - 1 | - 2 | - 1 |

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2月期(2021年第3週～第7週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点から侵襲性肺炎球菌1件、カンピロバクター1件、非定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌3件、過粘稠性肺炎桿菌3件、カンピロバクター1件の検査依頼がありました。

保健所からは、劇症型溶血性レンサ球菌2件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、保健所からレジオネラ5件の検査依頼がありました。小児科定点からは溶血性レンサ球菌1件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2021年第3週～第7週)

| 菌株同定 | 項目 | 検体数 | 血清型等 | |
|-----------|-----------------|-------|---|---|
| 基幹定点 | 侵襲性肺炎球菌 | 1 | <i>Streptococcus pneumoniae</i> UT (1) | |
| | カンピロバクター | 1 | <i>Campylobacter volucris</i> (1) | |
| 医療機関 | カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 | 3 | <i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1) | |
| | 過粘稠性肺炎桿菌 | 3 | <i>Klebsiella pneumoniae</i> (3) | |
| | カンピロバクター | 1 | <i>Campylobacter fetus</i> (1) | |
| 保健所 | 劇症型溶血性レンサ球菌 | 2 | G群溶血性レンサ球菌 (1)、 B群溶血性レンサ球菌 III型 (1) | |
| 分離同定 | 材料 | 項目 | 検体数 | 同定、血清型等 |
| 保健所 | 喀痰 | レジオネラ | 5 | <i>Legionella pneumophila</i> SG6 (1)、不検出 (4) |
| 小児サーベイランス | 項目 | 検体数 | 同定、血清型等 | |
| 小児科定点 | 溶血性レンサ球菌 | 1 | 不検出 (1) | |

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報(令和3年2月)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。

今回は、当WEBページにおける令和3年2月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数は市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。また、令和2年2月の集計より、新Webアクセス解析システム「Matomo」による集計となります。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和3年2月の総アクセス数は、342,270件でした。前月に比べ22.6%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*90.8%、保健情報5.6%、食品衛生0.7%、生活環境衛生0.7%、薬事0.7%、検査情報月報0.5%でした。

* 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

2月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「横浜市感染症情報センタートップページ」、2位は、「ぎょう虫(蟯虫)症について」、3位は、「トキソプラズマ症について」でした。8位には、「ライノウイルスについて」が入っています。

表1 令和3年2月 アクセス順位

| 順位 | タイトル | 件数 |
|----|------------------------|---------|
| 1 | 横浜市感染症情報センタートップページ | 231,795 |
| 2 | ぎょう虫(蟯虫)症について | 7,343 |
| 3 | トキソプラズマ症について | 4,477 |
| 4 | 大麻(マリファナ)について | 4,382 |
| 5 | B群レンサ球菌(GBS)感染症について | 3,432 |
| 6 | クロストリジウム-ディフィシル感染症について | 3,214 |
| 7 | 死亡率・致死率(致命率)・死亡割合について | 3,097 |
| 8 | ライノウイルスについて | 2,809 |
| 9 | リステリア症について | 2,550 |
| 10 | EBウイルスと伝染性単核症について | 2,533 |

データ提供:市民局広報課

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/idsc.html>

「ぎょう虫(蟯虫)症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ka/gyou1.html>

「トキソプラズマ症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ta/toxoplasma1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

令和3年2月の問い合わせは、6件でした(表2)。

表2 令和3年2月 電子メールによる問い合わせ

| 内容 | 件数 |
|-----------------|----|
| インフルエンザ患者数について | 5 |
| 果物等に発生するカビ菌について | 1 |

2 追加・更新記事

令和3年2月に追加・更新した主な記事は、2件でした(表3)。

表3 令和3年2月 追加・更新記事

| 掲載月日 | 内容 | 備考 |
|-------|-----------------|----|
| 2月 5日 | 人口動態統計資料 令和元年 | 掲載 |
| 2月17日 | 感染症に気をつけよう(2月号) | 掲載 |

【 感染症・疫学情報課 】